

# 手賀沼通信

2005・3

第 22 号

編集・発行 美しい手賀沼を愛する市民の連合会

〒270-1146 千葉県 我孫子市高野山新田 1 9 3 千葉県手賀沼親水広場気付

## 2市1町一斉に実施された 第2回手賀沼統一クリーンデー

### 【2年目を迎えた統一クリーンデー】

平成16年度の手賀沼統一クリーンデーは10月24日に、柏、我孫子、沼南の2市1町夫々の拠点会場で同時スタートで開催された。

今年の統一クリーンデーは千葉県の手賀沼水質浄化対策協議会の支援事業になったことと、我孫子も含めたフルメンバーで参加できたことが特徴的なことであった。

各会場に千葉県職員、流域市町村職員もはせ参じ、共に汗を流して頂いた。千葉県からは火バサミ、軍手等の活動備品を、地元のアサヒ飲料からはペット茶を支給いただき感激であった。

### 【柏地域の活動】

昨年とは打って違って変って天高く秋の空、北千葉導水路第2機場に集合。参加者は初めての方とリピーターが半々で合計65名。昨年より増えてはいるが、ちょっと淋しい。



9時半、田口美手連会長の挨拶に始まって、太極拳風準備体操、作業説明の後作業開始。作業場所は昨年と全く同じ[柏ふるさと大橋～大津川河口のひどり橋の間]。ここを次の様なシフトを組んだ。

**1 班**：柏ふるさと大橋～北千葉導水路第2機場間。

『手賀沼の浄化を考える会』が中心に

### 目 次

2市1町一斉に実施された 第2回手賀沼統一クリーンデー .....	1
市民が水質調査をするということ(環境研究センター 小倉久子) .....	3
平成16年度手賀沼流域協働調査 第2回目も実施される .....	4
沼流域見学会 『アサザプロジェクトを見習おう』 .....	6
第8回手賀沼流域フォーラム 手賀沼親水広場で開催される .....	7
研修視察会 渡良瀬遊水地と足尾緑化事業 .....	9
せっけんで街づくり 特定非営利活動法人せっけんの街 .....	11
「手賀沼の鳥 30年の変遷」を刊行(我孫子の野鳥を守る会) .....	12

なって活動。

**2 班**：北千葉導水路第 2 機場～大津川河

口のひどり橋の間。

『大堀川の会』の胴長組と一般参加者の共同作業。

**3 班**：ひどり橋付近。

『530 の会』、『大堀川の会』等が担当。

大勢の力は凄い。手賀沼・大津川等からオートバイ、洗濯機、コンプレッサー、タイヤなどをグイグイ引っ張り揚げた。ひどり橋付近には未だ未だゴミが隠れている様子が覗えた。

約 90 分の奮闘は 11 時過ぎに幕となり、折からの秋の陽射しを背に受けて手賀沼湖畔の土手沿いを三々五々帰路についた

(記 河井弘泰)

#### 【我孫子地域の活動】

今回はじめて、統一クリーンデイに我孫子地区として参加でき嬉しく思いました。参加者が 53 名と少なかったのですが、小さな子供連れのご家族や、高齢のご夫婦、友達同士、若い方など、幅広い層の方々が関心を持って参加してくださいました。

清掃活動は手賀大橋から東我孫子までの狭い範囲でしたが、収集したゴミの量は、不燃ゴミ 370kg・燃えるゴミ 340kg で、空き缶やビンなどが最も多く、タイヤホールや家庭ゴミまで、何故こんなところに捨てるのだろうかと思われるゴミもあり大変残念でした。これらのゴミが、手賀沼の景観や環境を汚すばかりでなく、手賀沼処理場に流れ込むため、周辺農家は、大変迷惑をしていると聞きました。ゴミが詰まって田んぼへポンプアップできなくなるため農業者が、負担金を出してゴミを取り除いているとのことです。

来年は、もっと参加者が増え、さらに、ゴミが減っていることを願っています。

(記 佐藤祐子)

#### 【沼南地域の活動】

沼南町の『沼南 手賀沼ボランティア会』としては、手賀沼統一クリーンデイの意義を『住民と共に行う手賀沼周辺の美化活動』『住民主役の啓発活動』と位置づけた。従って活動そのものは、危険なこと、大変なことを避け、誰にでもできることに主眼を変えた。

そのためには手賀沼クリーンデイを住民に公知させることが一番大事なことである。昨年も行われた『町広報』による呼び掛けと、町内への『ビラ入れ』を計画した。昨年の経験から、広報による呼び掛けよりも、負担は大きいビラ入れの方がはるかに効果が上がっていた。今年の手賀沼統一クリーンデイは、手水協の支援事業にもなったことでもあり、ビラ配布は行政が持つ『区長配布』の仕組みが使えないかと思い、町当局にお願いし、OK の返事がもらえた積りで居た。ところが直前の 10 月に入ってから、内部事情で出来なくなったとの連絡が入ってきた。日にちも押し迫って自分たちでビラまきをする体制に作り直し、直前まで撒いて歩いた。

その甲斐があってか一般市民の参加が昨年を上回る 25 名、その上に風早北部小学校の 4 年生とその先生・父兄が 30 名以上と、われわれを含めて、総勢が 70 名を超える数となった。

協力者の増大に伴い、活動の範囲も、当初の『大津川河口 手賀大橋』間から



『ハスの自生地先』まで伸ばすことができた。本当の活動時間は1時間そこそこであったが、全員で清掃活動をした充実感をかみ締めながら解散となった。

今回のトピックスは、ヒドリ橋の下に住むホームレスの男性が私たちと一緒に頑張って自分が出した生活ゴミを一生懸命運んだことと、風早北部小学校の子連れのお母さんが小さな子と一緒にゴミを拾っていて

「矢張り環境問題は家庭教育が基本だよ」と語らせたことだった。

昨年からの私たちの間で課題となっていた大津川河口中洲の上のゴミは、統一クリーンディの次の定例活動日である11月22日と12月8日の2回にわたって綺麗にしたことも報告しておきます。

(記 山木健一)

## 市民が水質調査をするということ

千葉県環境研究センター 小倉久子

### 寄稿

手賀沼協働調査では、手賀沼流域の市民(団体)のみなさんに中心になってもらって、市町村や県職員がお手伝いするという形で行っています。調査前の打ち合わせ会などで、市民の方から「どうして市民が精度の悪い水質検査をやる必要があるのか。行政がすでに調査をしているのだから、いまさら市民がやってもしょうがない」という声も聞かれました。本当にそうでしょうか。

私は、そうは思いません。なぜかという、自分の経験から言っても、(水質)調査を自分達の手でやると、川をよく見るようになるからです。

以前私は、環境講座で「見る」という言葉について話したことがあります。英語で「見る」というと see, look, watch などがあります。同じ「見る」でも少しずつ意味が違っているのです。

See: 見る、というよりも「見える」という感じ。

look: look at という使い方からもわかる

ように、見ようという意味を持って見るときに使うようです。

watch: 手元の辞書には「注意して見守る、観察する、監視する」と書いてあります。

そう、今までは川や沼をただ見ていた(see)方に、水質調査をすることによりもっとよく見て(watch)もらえることを期待しているのです。

ですから、市民調査というのはまず、参加することに意義があります。でも、オリンピックも参加することに意義がある、とはいうものの、出れば金メダルをねらいたくなりますね。水質調査も、せっかく調査するのですから、その結果が使えるようにできるだけ正確にやりたいものです。そのためには、私たちもできるだけお手伝いをさせていただきます。

現場をよくご存知の地元のみなさんと、調査方法をちょっとだけよく知っている私たちが一緒にやれば、まさに「鬼に金棒!」なのです。

# 平成 16 年度手賀沼流域協働調査 第 2 回目実施される

## 【大堀川河川調査】12月14日

参加者は柏市・県水質保全課・市環境保全協議会・千葉商科大学大学院生・大堀川の会、合計 21 名

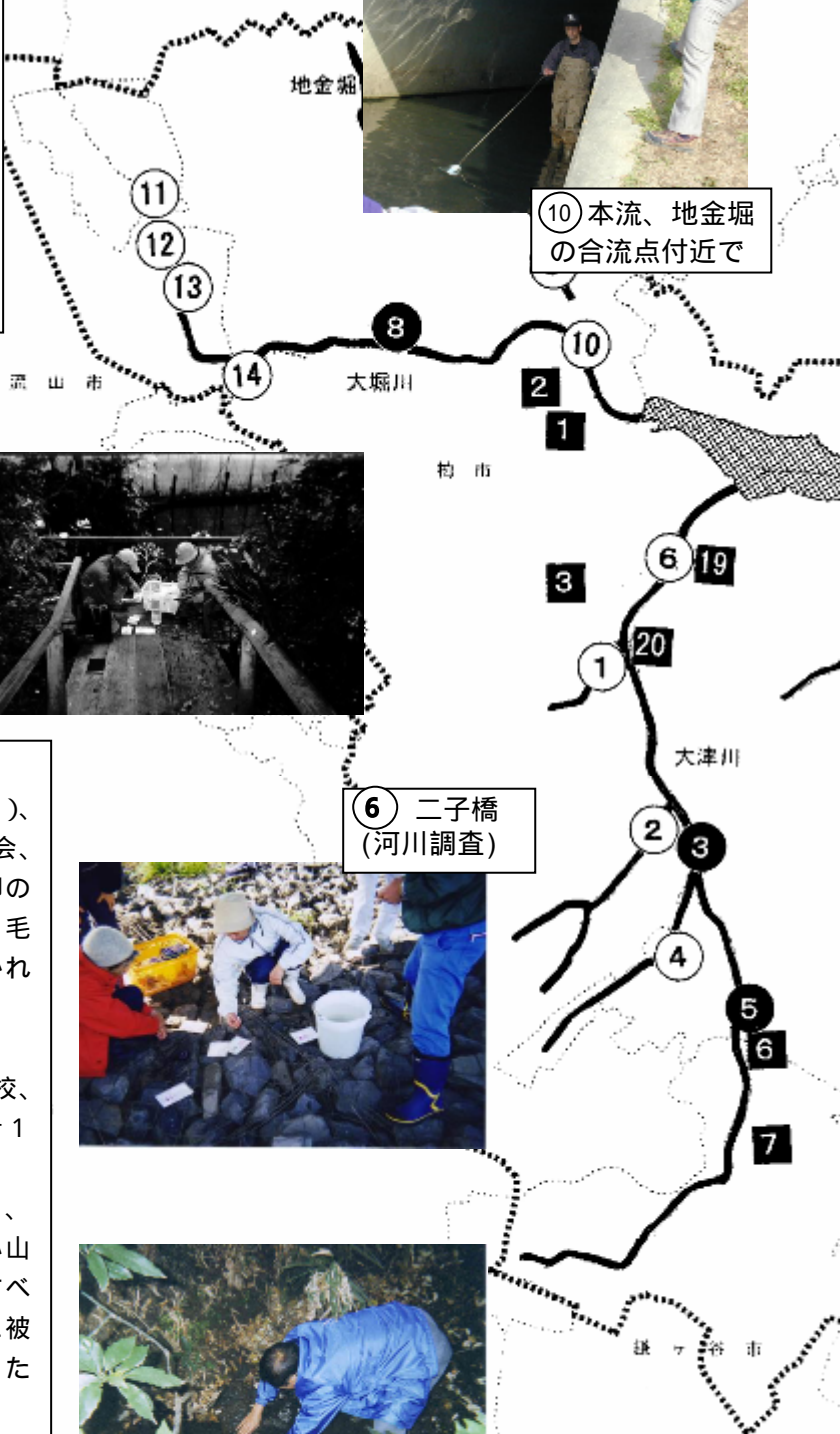
今回は欲張って支流まで測定しましたが、本流系・地金堀系共に大部分の箇所の COD が従来になく低く出て、素直に喜んでいいのかが首を傾げています。

地金堀系の柏市公設卸売市場より北の地域では、つくばエクスプレス沿線整備計画に伴い調整池が作られるなど水路が大幅に変更されつつあること分かり、今後の地金堀への影響を注視していきたい。(青

田中中学校前



⑩ 本流、地金堀の合流点付近で



## 【柏市湧水調査】12月8日

水と土手賀沼の会、ホームサイエンス倶楽部、柏市、計 4 名参加



## 【河川調査】12月28日

大津川をきれいにする会、商工会(清風会)、大津ヶ丘中学校、沼南手賀沼ボランティア会、千葉県、沼南町、合計 19 名の参加。高柳の『かにうち橋』『馬渡』と、染入落『若白毛宮前』・大津川の『二子橋』への班に分かれた。なお、今回は水質調査だけの調査。

## 【湧水調査】12月4日

大津川をきれいにする会、大津ヶ丘中学校、沼南手賀沼ボランティア会、沼南町、合計 15 名の参加。

大井の『中の橋湧水』・『小山台湧水』、布瀬の『沖戸湧水』と『山野辺湧水』。小山台へ到着して驚いた。水源地帯の木々がすべて伐採されていた。秋の台風時に長屋門に被害が及ばないようにと、全て切ってしまったとのこと。無念の思いが漂う。

山野辺湧水では、宅地開発の第 2 期の工事は近くまで来るそうだ。今となっては工事の阻止まではできないだろうが、湧水が枯れていく過程だけは記録に残したい。(山木)

⑥ 二子橋 (河川調査)



②⑦ 中ノ橋 (湧水調査)



【我孫子地区河川水質調査】12月18日  
 NPO石けんの街、谷津を愛する会、岡発  
 戸・都部の谷津ミュージアムの会、湖北座  
 会、文化を守る会、ホテルの里を守る会（鎌  
 ケ谷市）、我孫子市、千葉県で参加12名。

湖北集水路

前回調査と概略同じであった。一見、川  
 底まで見えるほどきれいな水であるが、  
 CODは高く10であるN分も高い。

低地排水路

濁っていて透視度が悪い(22)、小魚(メ  
 ダカその他)を2~3匹捕まえた。

後日調査地点を観察したら水はきれい  
 で川底が見えた。調査当日は上流で浚渫工  
 事か、下流で排水ポンプの運転が行われて  
 河底・水が攪拌された可能性が考えられる。

(塩野谷)

23 湖北集水路  
 水質・水性生  
 物調査



- 1 湧水調査箇所
- ① 水質調査箇所
- ③ 水質・水生生物調査箇所



7 若白毛宮前  
 (河川調査)



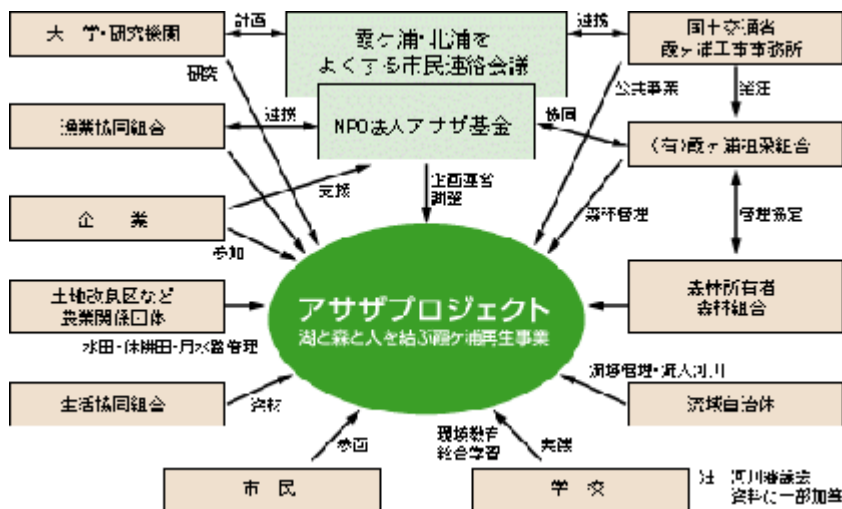
4 滝不動湧水



我孫子市湧水調査  
 岡発戸滝不動  
 12月7日  
 我孫子市民、我孫子市5名  
 都部  
 12月13日  
 我孫子市民、我孫子市7名

# 沼流域見学会 アサザプロジェクトを見習おう

美しい手賀沼を愛する市民の連合会の16年度沼流域見学会として、平成16年9月10日にアサザ基金の案内で、アサザプロジェクトの実施状況を見学した。今後の美手連の活動に大きな示唆を与えてくれる有意義な一日であった。



サザを植栽すると、数年で消波堤より沖合いまで繁茂し、波を消し、魚の棲みかや産卵場所となり、鳥の巣作りの場所ともなる。水質の浄化にも役立つこととなる。

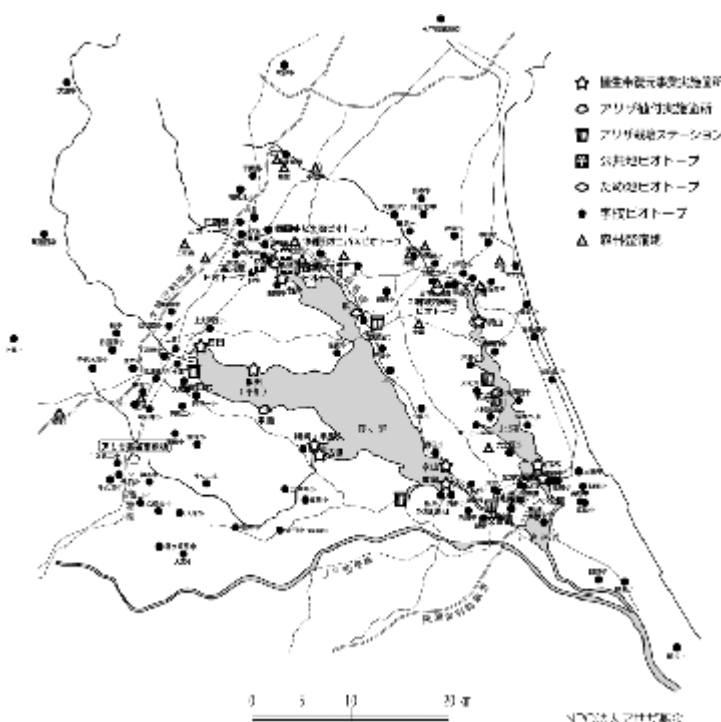
霞ヶ浦は透明度が低いため、沈水植物は生育しない。浮葉植物ならば波さえ無ければ生育が可能。浮葉植物のなかから霞ヶ浦で自生しているアサザを

アサザやマコモなどによる霞ヶ浦と北浦の自然再生事業である「アサザプロジェクト」の企画・運営を担当するのがNPO法人アサザ基金である。アサザプロジェクトには、図に示すとおり行政・研究機関・学校・漁業・農業・林業・市民・企業が関わっている。

手賀沼と違って、霞ヶ浦は全域がコンクリート護岸化されている。そのため、岸に寄せる波が大きく、水草が育つことができない。植生帯を復元する地点では、コンクリート護岸に砂を被せ、浚渫した泥を盛り上げて、遠浅の地形を形成する。その沖合いに消波堤を設置する。アカマツで枠組みをした中に、間伐材などから作った粗朶を詰め込んで、波を消すことにした。

陸地側から順に、ヤナギ・ヨシ・ア

選んだ。  
流域の小中学校などに小さなビオトープ



を設置して子供たちにアサザを育ててもらい、植え付けも手伝ってもらうことで、環境教育となり、郷土愛も形成される。170校以上が参加するようになった。手賀沼流域フォーラムでは、子供たちの環境学習の成果を発表してもらっているが、年に一度のイベントに3校を動員するのがやっついで、毎年どこの学校に依頼するか苦労している。やはり「お勉強」だと参加しにくいのだろう。アサザプロジェクトのように、自分たちが育てた苗を自ら沼に植栽して、浄化に役立つことを体験できることの喜びは、自発的な行動を促し参加の輪を自然に広げてくれるのだろう。統一クリーンデーという具体的な行動を始めた美手連の今後の進むべき道を示唆してくれていると思った。

流入河川もコンクリート3面張りである



が、その一部にわざと蛇行する仕掛けを形成すると、植生が復元するので水質の浄化に役立つ。手賀沼に流入する河川にも即刻応用したいものである。市民だけでなく行政や企業を巻き込んで、幅広い活動を行っているアサザプロジェクトに強い感銘を受けて帰路についた。

(記 上村 隆)

## 第8回 手賀沼流域フォーラム 手賀沼親水広場で開催される

平成16年度の第8回手賀沼流域フォーラムは10月2日に我孫子市にある手賀沼親水広場で開催された。流域フォーラムになってここをメイン会場としたのは初めてであった。

### 【小学校の環境学習の事例発表】

10時30分の開会式・高野山小学校による手賀沼をたたえる合唱に続いて、近隣小学校の環境学習の事例発表に移った。今年の発表校は柏市立柏第四小学校、我孫子市立我孫子第二小学校、沼南町立手賀西小学校の3校であった。

会場は発表校のお母さんがたてほぼ満席となり、発表を終わって席へ戻った生徒たちが座る席もなく、会場外へ出て行く姿も認められ、肝心の自分たちの講評も聞けないうでいた。



発表の内容は3校とも素晴らしく、熱がこもっていて元気が良く甲乙付けがたい状況であった。ただ、近年の発表を見ると、発表のための発表と言う印象が強くなり、小学生の素朴さがもっとあってよいと感じている。ドラマ化するにしても普通の教室の状況を再現するような形も面白いと思っている。



### 【基調講演】

基調講演はアサザ基金代表理事の飯島博さんによる『子ども達とつくる湖沼の未来～アサザプロジェクトの100年の計～』である。冒頭、自然再生がクローズアップされているが、

市民との連携なしには成り立たないとの発言から始まったのが印象的だった。

アサザ基金の活動は霞ヶ浦へのアサザ再生活動を行い見事に成功させた。その原因を考えて見ましょう。

飯島氏は生物生態系の研究者であり専門家であり、環境問題をライフワークとする実践家として紹介されている。彼は綿密な調査を行う実践家であるが、彼の長所はNPO活動等の中で身に付けた多くの住民を組織し、活動に参加させる能力にあると思います。縦割り行政・利益追求の企業には出来ない力が発揮され「市民型公共事業」に延べ8万人以上を参加させた力は素晴らしいと思います。

次に、行政に働きかけて、湖の水位の引き上げを凍結させたり、流域にある木材や粗朶を使用した消破堤や、護岸を土で覆って植生帯を復元するアイデアを国交省に提出し事業化させた。このようなことは、私の想像を越えるようなことでもあります。

社会的情勢としては行政側にも大多数の住民にも湖の再生を願う気持ちが充満していたものと思いますが、飯島氏は「NPOの武器はアイデアです。お金や政治力のない私たちが事業を動かしているのは、アイデアをだし、相手の難題を解

決するのに役立つからです。役所が縦割りを超えて地域社会で仕事をする。その状態を作ることがNPOの大きな役割です」と語っております。私達も現在、市民活動をより強力に進めるにはと、大いに悩んでいると思います。アサザ基金活動は未来を指し示す一つの指針となると確信致します。

参考文献 よみがえれアサザ咲く水辺

文一総合出版  
(記 塩野谷 勉)

### 【パネル展示】

今年のパネル展示は屋外のテント村で行われた。各団体の日頃の活動成果や機関紙、関係資料を持ち寄って盛大な展示が行われた。初めての試みとしてお立ち台での展示団体によるパネルの口頭発表会も行われたが、お昼休みであったためか、これを聞く人はまばらだった。努力の甲斐もなく、展示場を訪れる人は閑散としていて悔いが残ってしまった。

### 【水質調査結果発表】

メイン会場では行政・住民などが連携した湧水・河川調査結果の発表が千葉県生活部水質保全課により行われた。この調査は4・5ページにも記載してある通りであるが、本年3月・6月に行われたもののデータを取りまとめて報告された。



パネル展示では、各団体ごとのブースを一生懸命説明した



## 【水質調査教室】

『先生のための水質調査教室』とうたったコーナーであったが、先生方は忙しかったのか、プライドを傷つけられたと感じたのか、ひとりも応募者がいなかった。変わ

って動員されたのが前項の水質調査に参加している市民団体であった。見よう見まねで内心ビクビクで調査に参加していた人たちにはタイミングを得た勉強会であった。

## 研修視察会

# 渡良瀬遊水地と足尾緑化事業

平成16年度の美手連研修視察会は鉱毒事件の発祥の地となった足尾銅山の緑化運動と、事件を沈静化させるために谷中村を潰し、湖とした渡良瀬遊水地を訪ねることにしました。

11月26日マイクロバスで我孫子駅か

ら出発した15名はその日のうちに国土交通省利根川上流事務所に付設されている利根川資料館、わたらせ遊水地を見学し、翌日は草木ダム、富弘美術館を経由して足尾銅山緑化事業を見学しました。

同行の方々の寄稿をご披露いたします。

11月の末に「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」略して「美手連」の研修旅行に参加してきた。

まず第一に、渡良瀬に行き、その遊水地の広さは日本最大で、明治時代の足尾鉱毒事件により、谷中村を廃村化して作られたもので、その時 田中正造は村を守るために奔走したが、資本家を優先する政府の方針は変わらず、谷中村は谷中湖（渡良瀬貯水池）と変貌したのである。

私は今、葦原の中の旧谷中村の跡地にきて、田中正造が村民と寝食も忘れ談じ、また村民を慰め激励した雷電神社跡に立つて鉱害も公害も、各々がもっと自覚しなけれ



ばと思った。

葦原は延々として続きほかの植物を見ることが適はず、しかし堤防より遊水地に、白鷺のコロニーが見えて乱舞する様や、枯れ木にチュウヒが止まっているのが見え心がなごんだ。

次は日本鉱害の発祥の地と言われる足尾銅山に行き、その荒廃をまのあたりにして、人事でなく身につまされた。

町中を歩く人も見かけず、鉱山の栄えた時は一学年十二学級もあったと言う小学校は、ひそやかに建っていた。向う



葦原と化した旧谷中村に今も残る墓地

山に見えるわずかの緑の色も、どす黒く煙害（亜硫酸ガス）による酸性土は百年経ても消えない。

山の中腹の小学生らの植樹をした所に登って見たら、嬉しいことに、我孫子の湖北、高野山小学校生徒らの植樹をした木があって塵よけネットをめぐらして大事にされていた。

渡良瀬遊水地、旧足尾鉍山と廻って見て、

私たちの手賀沼をもっと大事にしなければと思った2日間であった

煙害にみどり果てにし足尾の山に

わが町の子らの植ふし木々のあり

（我孫子の文化を守る会 田口 ふみ）

足尾の鉍山と製錬所は下流では鉍毒、そして上流では煙害を起こしました。製錬所からの亜硫酸ガスを含んだ煙と、山火事で、山々ははげ上がり、土砂崩れが激しくなりました。それが下流で洪水をよび、鉍毒の被害を広げました。

「足尾に緑を育てる会」の方に足尾の市街地と植樹地を案内していただきました。

足尾の町に行って、まず驚いたのが、村役場裏に迫るようにあるダムです。それは箕の子橋堆積場という、製錬場から出る鉍滓の堆積場ということでした。

自分の無知をつくづく思い知りました。現在も植生が回復していないことを知りましたが、その原因は明治の昔のことと思っ

ていました。亜硫酸ガスの対策がなされたのが50年前、鉍山が閉められたのもまだ30年前だし、その後1989年まで製錬工場は稼働とのこと。戦後も鉍毒公害が問題になっていただけでなく、今もって、鉍山や堆積場からの雨水処理を行い、その浄水場の沈殿物を箕の子堆積場に運んでいるということに驚きました。利根川に流れ込んでいる渡良瀬川の上流で。

植樹地では、目前に足尾ダムが見えます。緑化事業で多少の緑が見えますが、周辺も、ダムの向こうも荒廃した山肌が広がっています。足尾ダムは大きな砂防ダムで、すぐに土砂で埋まったそうです。

私がツアーに参加したのは下流の地場産

業のよしずを、足尾の緑化事業に使う、わたらせ未来基金について聞いたからです。体験植樹のプレートに私たちの近所の学校もありました。鹿の食害や表土流失など困難がある中、こういった智恵や、協力者を得て、ゆっくりと緑を増やしているようです。

（NPO せっけんの街）



岩山をここまで回復させた努力と今後の継続を思うと、自然保護の大切さと難しさを感じる

# せっけんで街づくり

## 特定非営利活動法人せっけんの街



### 1. せっけん運動のはじまり

日本一汚れた沼、「手賀沼を守ろう！」と、1980年に我孫子市、柏市、流山市、沼南町で合成洗剤追放の直接請求運動が広がりました。さらにその運動は手賀沼の汚染のもうひとつの原因である使い終わった食用油（廃食油）を回収して、せっけんを作り、使う運動へとつながっていきました。1984年、約1万人の市民出資で柏市に廃食油を原料にしたせっけん工場を建設。1994年、市民出資と地球環境基金の助成金で、酒々井町に第2工場を建設し、リサイクルせっけんの運動拡がりがありました。

### 2. 廃食油回収

現在20市町に地区運営委員会があり、そのうち16市町で、運営委員を中心に各地域3～4ヶ月に一度のペースで地域にある廃食油回収ポイントを廻っています。また我孫子市・浦安市・白井市・大網白里町では行政が資源回収として実施し、リサイクルせっけんは我孫子市の場合は学校給食の食器の洗浄剤として使用されています。また各市で実施されるイベントなどで配布され、市民の方に利用されています。

### 3. 環境学習

出前講座として、小中学校の環境授業として実施しています。内容は、せっけんと

合成洗剤の違いを簡単な実験などを取り入れて行う「せっけんで暮らしませんか？」（写真）。またお鍋でせっけんづくりを通して、捨ててしまえばゴミになる、使い終わった食用油をせっけんにリサイクルすることで、資源循環の話をします。その中で、自分たちができることから実践してもらえるように促しています。



### 4. 環境イベント・消費生活展

毎年、エコメッセ、各市町村で実施する消費生活展や地域のイベントなどに参画し、行政や多くの団体とのネットワークを拡げています

特定非営利活動法人せっけんの街

柏市小青田29-2

TEL 04-7134-0463 FAX 04-7134-7468

URL <http://sekkenomachi.org>

## 「手賀沼の鳥

## 30年の変遷」を刊行

我孫子の野鳥を守る会 会長 木村 稔

我孫子野鳥を守る会は、2002年に発足30周年を迎えました。これを記念して手賀沼の野鳥の観察・調査結果を纏めた「手賀沼の鳥 30年の変遷」を刊行しました。20周年で発行した「手賀沼の鳥」にその後の10年間の記録を加え、新たに追加編集した「手賀沼における鳥類レッドデータブック」がカラーページで掲載されました。これは、山階鳥類研究所所長の山岸哲博士にも評価していただきました。前号の165ページの約2倍の336ページになる本書は編纂委員会の手造りによるものです。

10年前と違いコンピューターをフルに使ってはいるもののやはり大変な作業でした。基本データを共有してそこから各部門の担当者がデータを引き出して纏めるのですが、持っているパソコンの機種の違いやパソコンの経験度の違い、仕事をかかえながら会合を重ねるなど苦労も多かったのです。

本誌は会員に配布したほか、地域の図書館や関係者に寄贈しました。これから各方面で利用されることで出版した意義が出てくると思います。

本誌の手賀沼の水鳥データを見ればほとんどの水鳥は減少傾向にあり、北千葉道水路からの浄化用水の注入以後もそれは続いています。

本誌刊行によせていただいた福島市長のメッセージに「手賀沼は全国ワーストワンを返上しましたが、水がきれいになるだ

けではなく手賀沼を取り巻く自然全体を再生することが何よりも大切です」とあります。改善しなければならないのは水の中だけではありません。水鳥の再生には水田のあり方もかかわっています。

昨年末より明治以来の記録という、コウノトリが一羽、我孫子の水田に飛来しました(写真)。市民は大歓迎で少しでも永く滞在して欲しいと願っていますが、それは、コウノトリの餌である魚貝や蛙、ミミズなどがどれくらいあるかにかかっています。自然度の問題であるといえます。コウノトリだけでなく、手賀沼の水鳥のために、そして人間のためにも自然再生が求められていると思います。



〔本書は我孫子市立鳥の博物館で販売中〕  
1冊3千円

『美しい手賀沼を愛する市民の連合会』は次の団体により構成されています。またホームページもご覧ください。

湖北座会、ふれあい手賀沼の会、流山市立博物館友の会、NPOせっけんの街、水と土・手賀沼の会、我孫子野鳥を守る会、古利根の自然を守る会、我孫子青年会議所、我孫子の文化を守る会、手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会、大堀川の水辺をきれいにする会、手賀沼漁業協同組合、生活協同組合我孫子生活センター、ホームサイエンス倶楽部、自治労我孫子市職員組合、沼南 手賀沼ボランティア会、手賀沼の浄化を考える会、我孫子市消費者の会、自治労柏市職員組合、自治労流山市職員組合、自治労鎌ヶ谷市職員組合、岡発戸・都部の谷津を守る会、我孫子の景観を育てる会

URL.....[http://www.geocities.jp/natureland\\_6252/](http://www.geocities.jp/natureland_6252/)

サイト名.....美しい手賀沼を愛する市民の連合会

